

マイクロサテライト不安定性を有する消化器癌に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年11月2日 ～ 2029年03月31日

〔研究課題〕

Microsatellite instability を有する消化器癌の臨床病理学的特徴における検討

〔研究目的〕

細胞の DNA 修復がうまく働かないと、遺伝子変異を受けやすい状態になります。これをマイクロサテライト不安定性 (Microsatellite instability) といいます。消化器ではマイクロサテライト不安定性により遺伝子変異が蓄積した結果、癌となる場合があるといわれています。既に大腸癌や胃癌においては、マイクロサテライト不安定性のある癌は悪性度や予後、治療の反応性に関して特徴がある可能性が示唆されていますが、臨床応用にはまだ多くの研究が必要です。また、食道癌や膵臓癌でのマイクロサテライト不安定性に関しては研究自体が非常に少ないため、殆どわかっておりません。こうした現状をふまえ、当研究では、大腸癌、胃癌、食道癌、膵臓癌の診断で切除術を受けられた方の癌組織を対象としてマイクロサテライト不安定性のある癌での臨床的な特徴を明らかにすることを目的とします。

〔研究意義〕

上に述べた通り、マイクロサテライト不安定性のある癌では悪性度や予後、治療の反応性に関して他の癌とは異なる可能性が示唆されています。従って、病理診断において日常的に行われている免疫組織化学により、これらを明らかにできれば、日常診療における診断や治療選択において寄与する可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2001年～2015年の期間に帝京大学医学部附属病院で食道癌、胃癌、大腸癌、膵臓癌の診断で切除術を受けられた方を対象とします。摘除された腫瘍部分について、免疫組織学的手法を用いて DNA 修復関連蛋白 (MLH1, MSH2, MSH6, PMS2) の蛋白発現を調べます。これらの結果と、病理組織学的診断との比較検討を行います。

この研究は厚生労働省の「人を対象とする医学的研究に関する倫理指針」を遵守し、倫理委員会承認の上、実施されます。特に患者さんに新たにご負担いただくことはございません。この研究のためにご自身のデータを使用されることを望まれない場合は、主治医にお伝え頂くか下記の窓口までご連絡ください。尚、使用を望まれない場合でも、匿名化が施された後は情報・試料の廃棄はできませんのでご理解のほど宜しくお願いいたします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部病理学講座

〔個人情報の取り扱い〕 研究結果は、個人が特定できない形式で学会や論文において発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後 10 年間保存されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部病理学講座 助教 沼倉里枝

研究分担者: 宇於崎宏、菊地良直、渡邊雅人、渡部朱織

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 48210]